

平成28年度 奥出雲町商工会 経営発達支援事業 実績報告・事業評価・見直し結果 報告書

1. 評価機関名 奥出雲町商工会経営発達支援計画外部評価委員会
2. 開催日時 平成29年6月21日(水)午後1時30分～午後3時
3. 開催場所 奥出雲町商工会 本所 3階 会議室
4. 出席者
 - (1) 外部評価委員(3名)
 - ・日本政策金融公庫松江支店 支店長(国民生活事業統轄) 立元 博
代理 融資課長 宮本 大資
 - ・奥出雲町地域振興課 課長 杠 康彦
 - ・島根県商工会連合会 事務局長 葛西 章
 - (2) 商工会(6名)
 - ・奥出雲町商工会 会長 植田 良二
事務局長 長谷川 正 経営指導員 福間 基博 塩野 昌弘
" 石田 葉子 山中 大志
5. 評価基準 5段階で評価
 - A: 目標を達成することができた(100%以上)
 - B: 目標を概ね達成することができた(80%~99%)
 - C: 目標を半分程度しか達成することができなかった(30%~79%)
 - D: 目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)
 - E: 未実施
6. 実績報告及び自己評価
 - (1) 地域の経済動向調査 <<総合評価B>>
 - 取組内容・結果
 - ①管内中小企業の景気動向調査を実施及び提供 【目標:年4回 実績:年4回】
 - ・景気動向調査ヒアリングシートを活用し年4回の調査を実施した。
 - ・調査結果については県とも比較しHPに掲載及び巡回等で配布し情報提供した。
 - ②経営状況等調査の実施(農業参入建設業者・食品製造業者)
 - ・概ね2回以上の巡回訪問により状況把握を行い、経営指導員間で状況を共有した。
 - 効果検証
 - ・経営判断の一つの指標として活用できたが、活用は限定的な事業者にとどまった。
 - 今後の改善等
 - ・引き続き年4回継続的に実施し、時系列に景気動向の変化を捉えるデータとする。
 - ・調査事業者を増やし、より精度の高い景気動向のデータとする。
 - ・HPへ掲載、巡回訪問での説明などでデータ活用を促す。
 - (2) 経営状況の分析 <<総合評価B>>
 - 取組内容・結果
 - ①経営状況の分析、活用 【目標:40件 実績:42件】
 - ・各種補助事業申請者、金融支援、専門家導入の案件事業者を中心に実施した。
 - ・伴走型補助事業を活用し、専門家による経営分析も実施した。
 - ・42件の内、38件が事業計画策定に結びついた。

■効果検証

- ・現状を把握した上での経営戦略、経営計画策定に繋げることができた。
- ・現状把握が行えたことで各事業者のニーズにあった情報提供を行なった。

■今後の改善等

- ・巡回訪問を中心に経営分析の重要性を説明するなど広報活動を行う。
- ・データ等を蓄積し、より経営分析の精度を高めていく。
- ・職員全体で取り組んで行く体制を構築する。

(3) 事業計画策定支援 《総合評価B》

■取組内容・結果

①事業計画策定の支援 【目標：40件 実績：38件】

- ・経営分析、各種調査結果などを踏まえ事業計画の策定支援を行った。
- ・伴走型補助事業を活用し、専門家と連携し事業計画の策定支援も行った。
- ・若干、目標件数に達成しなかった。

②事業計画策定等のセミナーの実施 【目標：14件 実績：11件】

- ・対象者を限定しない事業計画策定セミナーを1回開催した。
- ・伴走型補助事業を活用し、農商工連携や6次産業化に取り組む事業者向けに需要動向に関するセミナーを1回開催した。
- ・他、9回各種セミナー、講習会を開催した。

■効果検証

- ・短期課題に留まった計画が多かったが、経営の方向性や方針が定まり、目標を持って事業活動に取り組むことが可能となった。
- ・経営者のモチベーションが向上、社内での意思統一も図れた。
- ・金融機関等対外的にも信頼性が高まった。

■今後の改善等

- ・巡回訪問、セミナー等で事業計画の重要性を説明するなど広報活動を行う。
- ・必要ならば専門家を導入し、精度の高い事業計画策定を支援する。

(4) 事業計画の実施支援 《総合評価B》

■取組内容・結果

①実施支援 【目標：65件 実績：54件】

- ・策定が年度末となり、全てにおいてフォローアップができなかったが、巡回訪問を中心に進捗状況の確認、計画実施の助言等行えた。
- ・課題によっては専門家を導入しながら支援を行った。

■効果検証

- ・経営者のモチベーションが向上し、事業計画の重要性も認識いただけた。
- ・金融機関からの信頼が増し金融支援に繋がった。

■今後の改善等

- ・引き続き、定期的な巡回訪問により常に状況の把握に努める。
- ・事業者の意向を組み合わせながら専門家や施策を導入し事業計画の目標達成を支援する。

(5) 需要動向調査 《総合評価B》

■取組内容・結果

①需要動向に関する情報の収集、整理、分析及び提供

- ・商勢圏実態調査を実施、消費動向等の調査集計データを情報提供した。

- ・バイヤー目線の売れる商品などの情報をセミナー形式で情報提供した。
- ・商圏等分析データや業界別の動向データを計画策定の事業者等へ情報提供した。

■効果検証

- ・事業計画策定の外部データとして活用できた。
- ・商品開発のヒントが掴めた。
- ・活用はまだまだ限定的な事業者に留まった。

■今後の改善等

- ・事業者の規模や現状等にあった調査データを情報提供していく。
- ・必要に応じて専門家が有する需要動向をセミナー形式で広く情報提供していく。

(6) 新需要開拓 <<総合評価B>>

■取組内容・結果

①農業参入した建設事業者及び食品製造業者への商品開発、販路開拓支援

【商談会等参加支援事業者目標：10件 実績：20件】

【町人会等情報提供件数目標：4件 実績：4件】

- ・展示会、商談会等の開催や出展案内を20者に情報提供した。
- ・専門家を活用し、海外販路展開支援を1者行った。
- ・補助事業を活用し、商品開発支援を2者行った。
- ・伴走型補助事業を活用し、特産品カタログを作成（9者掲載）して奥出雲町人会の構成員を中心に販路開拓を支援した。

②持続化補助金等の活用による販路開拓支援

- ・持続化補助金を活用し15者（①の事業者4者含む）の販路開拓を支援した。

③SHIFTを活用したHPの新設、改良による販路開拓支援

【HP作成等支援目標：10件 実績：8件】

- ・SHIFTを活用しHPの改良等により8者（①の事業者2者含む）の販路開拓を支援した。

■効果検証

- ・若干ではあるが、売上、利益の向上が見られた。（限定的）
- ・雇用の維持が図れた。（限定的）

■今後の改善等

- ・継続的に事業を実施することが重要であり、各種補助事業や専門家を活用しながら事業者のレベルに併せて支援していく。

(7) 地域経済活性化 <<総合評価A>>

■取組内容・結果

①地域の賑わいを創出する事業 【目標：5件 実績：5件】

- ・会員事業者が中心となり、商工祭り、奥出雲だんだんフェスタ、三成夕涼み市、八川盆ボンフェスタ、横田まいもん小屋を開催した。

②地域ブランド化推進と観光振興・交流人口の増加に寄与する事業

【目標：3件 実績：3件】

- ・奥出雲サイクリング、奥出雲ウルトラおろち100km遠足大会、奥出雲バルを各機関等と連携して開催した。

③地域産業・伝統工業の振興に寄与する事業 【目標：1件 実績1件】

- ・雲州そろばん珠算競技大会をそろばん業界と連携して開催した。

■効果検証

- ・奥出雲ウルトラおろち100km遠足大会は500人を超える参加者があり、交流人口増加に繋がり、経済効果のある事業となった。
- ・奥出雲バルは地元町内消費喚起に繋がるなど地域活性化に効果が見られた。
- ・奥出雲サイクリング、雲州そろばん珠算競技大会は長年の実績があり、今年度も多くの参加者があるなど、観光振興、交流人口の増加、地域産業、伝統工芸の振興の一役を担った。
- ・商工祭り等は地域コミュニティの推進と地域の賑わいに貢献した。

■今後の改善等

- ・他機関と連携を密にして、経済効果の高い事業に取り組んで行く。
- ・色々な方の意見を集約して取り組んで行く。
- ・運営組織を明確にして事業推進に取り組む。

(8) 支援能力向上の取り組み 《総合評価B》

■取組内容・結果

①支援機関連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換 《総合評価B》

- ・各機関、専門家との連携を密にして、支援ノウハウ等情報交換を行い共有した。

②経営指導員等の支援能力向上 《総合評価B》

- ・各自がそれぞれ資質向上に努めた。計画的に出来ていない点もあった。

③支援ノウハウ及び経営状況の分析結果等の組織内共有 《総合評価B》

- ・経営指導員会議を月1回開催し、計画の進捗状況など情報共有を図った。
- ・職員会議も年2回開催したが、不十分であった。

④事業評価と見直し 《総合評価C》

- ・事務局内で検証し実績評価シートを作成した。
- ・外部評価委員会にて説明し、評価を受けた。

■効果検証

- ・支援ノウハウの向上と共有により資質向上が図れた。
- ・職員間の情報共有不足による取組不十分も出ている。
- ・PDCAサイクルの必要性を認識した。

■今後の改善等

- ・各種情報交換を行い可能な限り社内で情報の共有を図り資質向上に努める。
- ・計画的に支援能力の向上を図る。
- ・経営指導員会議、職員会議の定期的な実施による情報共有を図る。
- ・職員全員が計画を理解し、役割分担をしながら計画的に実施していく。

6. 評価委員会での評価結果及び見直し

(1) 外部評価委員による意見等（講評・提案など）

- ・項目毎の評価としては良くわかるし、実施している事もわかるが、最終的な評価としては、支援先の事業者の何者にどのような効果（売上や利益の増加、雇用の維持拡大など）が表れているかで検証し評価した方がわかりやすい。
- ・項目毎の実績、評価はわかるが、全体像が見えにくいので、フロー図や体系図、相関図などで見える化をして検証、評価してみてもどうか。
- ・需要動向調査などデータの集約提供の実績件数等はわかるが、こういった情報がどの事業者にどのような効果があり、新需要開拓にどう繋がったかが重要なので、その部分が見える化して示した方が評価しやすいのではないか。

- ・需要動向調査の評価が難しいと思うので、相手に届けた情報が参考になったかどうかなど、事業者からアンケートを取るなどして数値化すれば評価しやすいのではないかと。
- ・地域活性化の取り組みで非常に頑張っておられるのは良くわかったが、イベントなどそれぞれの事業が労力など費用対効果と見合っているかなどの効果検証も必要ではないかと。
- ・6次産業化の支援には1次生産者との繋がり強化を図ることが必要です。
- ・需要動向調査では日本政策金融公庫のデータは小規模事業者向けなので、役に立つと思いますので利用してください。
- ・作成した特産品カタログに対して、引き続き作成計画があるようなので、町出身者に対して懐かしさや応援したくなるキャッチコピーやイラスト等を用いることで、出身者の応援したい気持ちをくすぐる形で作成することが結果に繋がるのではないかと。
- ・奥出雲町人会の会場で展示即売会を開催したい意向があるようだが、出身者に直接事業者が接するので、効果は大きいと思われる。
- ・特産品カタログにQRコードを取り入れるなどITを駆使することで、カタログにインパクトが生まれ、より魅力あるカタログとなると思われる。

(2) 見直し

外部評価委員の方々の評価や提案を踏まえ、まずは数値目標に達していない箇所を重点的に取り組みながら、事業の質を上げていき、小規模事業者の売上や利益、雇用などを意識して、経営発達支援計画の目標達成に取り組んで行く。

また、本計画を着実に実行するために、職員の資質向上や情報共有を図り、職員一丸となって取り組んでいく方針である。

※添付資料 平成28年度 経営発達支援計画 実績評価シート